

## 『ジョウビタキの訪れ』

桑原 紀子



11月の朝、「ヒツヒツカタカタ」という澄んだ鳴き声が聞こえました。(ああ今年もジョウビタキがやってきた・・・)季節の便りが届いたような嬉しさです。

ジョウビタキは、中国やサハリンなど北方から、冬鳥として渡って来るのです。雄はオレンジの胸に黒い顔、灰色の頭、黒い羽にくっきりと白斑が目立ちます。雌は淡い褐色の身体にオレンジの尻尾、やはり羽には白斑が目印です。スズメ位の大きさの丸っこい身体に、丸い黒い目の可愛い顔です。

渡って来ると、早速縄張り作りに忙しそうです。庭の杏のてっぺんで、「ヒツヒツカタカタ」と甲高く鳴いている雄は、縄張り宣言をしているのでしょう。

農家のおじさんは、「この辺りでは、バカッチョモンツキって呼ぶんだ。紋付を着てるし、畑で、すぐ傍まで来て逃げないから」と、笑って教えてくれました。黒の翼に白斑は、紋付なのですね。

こんな事もありました。植木屋さんに庭木の剪定を頼んでいたら、一日中、植木屋さんの傍を離れないのです。枝に登ると、少し離れた枝に止まり、お茶を出すと、フェンスに止まってじっと見ているのです。

まだ若い植木屋さんに、「ひどく好かれたものね。いつもこうなの?」と聞くと、「こんな事は初めてです」と、ちょっと嬉しそうな表情でした。それからは(小鳥の植木屋さん)と、密かに呼んでいるのですが、もしかしたら、小鳥の方は、縄張りに侵入したライバルと思って、一日中監視していたのかもしれない。

